

第3回
真備地区復興計画
策定委員会

平成31年 1月30日
倉敷市

委員会	説明内容
第1回 (11/21)	<ul style="list-style-type: none">(1) 真備地区の特性・現況について(2) 復興懇談会の開催・ご意見について(3) 復旧・復興に向けたまちの課題について(4) 復興計画策定の目的・構成・スケジュールについて
第2回 (12/20)	<ul style="list-style-type: none">(1) 第1回復興計画策定委員会での主なご意見について(2) 真備地区復興ビジョン（案）について(3) 今後の予定
第3回 (1/30)	<ul style="list-style-type: none">(1) 第2回復興計画策定委員会での主なご意見について(2) 真備地区復興ビジョン公表後の復興懇談会の開催状況について(3) 復興計画策定に向けた調査の実施結果（速報）について(4) 真備地区復興計画（素案）について(5) 今後の予定

■方針1：災害に強いまちづくり

項目	ご意見の概要
基本方針	<ul style="list-style-type: none">● 被災した経験を踏まえた基本方針にすべき。
治水対策	<ul style="list-style-type: none">● 大武谷川における治水対策を強化してほしい。● 小田川や高梁川における樹木伐採等の今後の維持管理。
緊急避難場所等	<ul style="list-style-type: none">● 各学区の緊急避難場所の早急な決定。● 緊急避難場所が平地の学校だけでは不安。小学校がない服部地区での緊急避難場所の検討。
広域避難場所	<ul style="list-style-type: none">● 大規模災害が発生した場合、クリーンセンターや総合運動公園だけでは全員が避難できない。高台での新設避難所の検討が必要。
避難所運営	<ul style="list-style-type: none">● 被災時の避難所運営のあり方の見直しが必要。● ペットとの同行避難も考慮した避難所対応の検討が必要。
その他	<ul style="list-style-type: none">● 避難所までの道路整備や道路が水没した場合の対応が検討必要。● これほど多くの建物の建替えを行うような機会はない。建替えにあわせて全ての建物が一工夫されていけば、同じような災害が起きた場合でも被害が軽減できる。● 被災時の苦労や経験を教訓として活かすべき。

■方針2：みんなで住み続けられるまちづくり

項目	ご意見の概要
住宅再建	<ul style="list-style-type: none">● 新しい住宅団地では、どれだけの人が帰ってくるか不安がある。● 高台の農地で住宅再建ができるように検討してほしい。● 末政川等での堤防拡幅工事（県事業）にあわせ、周辺の市街地整備も一体的に計画してはどうか。
仮設住宅	<ul style="list-style-type: none">● 建設型仮設住宅へのコミュニティタクシーの乗り入れを。
公共施設の復旧	<ul style="list-style-type: none">● 小学校・中学校等の校舎の復旧時期がいつ頃になるのか、教えてほしい。

■方針3：産業の再興による活力あるまちづくり

項目	ご意見の概要
事業所再建 ・ 賑わい交流	<ul style="list-style-type: none">● 復興商店街の開設とあわせて、住民が集まれるコミュニティの場所を作ってほしい。

■方針5：支え合いと協働によるまちづくり

項目	ご意見の概要
住民主体の活動	<ul style="list-style-type: none">● 河川の維持管理等については、まちづくり協議会など市民の力を活用した協働による方法を検討してほしい。住民ができることはやりたいし、それが住民の防災意識を高めることにも繋がる。● 親水（水に親しむ意識）として日頃から市民が積極的に河川と関わっている地域は、浸水に対する地域の意識も高い。

■その他（復興計画の策定に向けて）

項目	ご意見の概要
計画策定の目的	<ul style="list-style-type: none">● 計画の対象は、この度の被災者だけでなく、未来の住民も視野に入れて、将来に向けたまちづくりの計画となるように。
その他	<ul style="list-style-type: none">● 次の世代のために、真備地区全体を俯瞰した、今後30年～40年のまちづくりを見据えた土地利用を検討してほしい。

第1回 復興懇談会（11月3・4・10日）

第1回 真備地区復興計画策定委員会（11月21日）

第2回 真備地区復興計画策定委員会（12月20日）

真備地区復興ビジョン公表（12月27日の市長の定例記者会見）

真備地区復興ビジョンの配布（1月10日～真備地区住民全世帯に郵送）

第2回復興懇談会・復興ビジョン説明会（1月14・18・20日）

復興に向けた基本理念・基本方針

基本理念

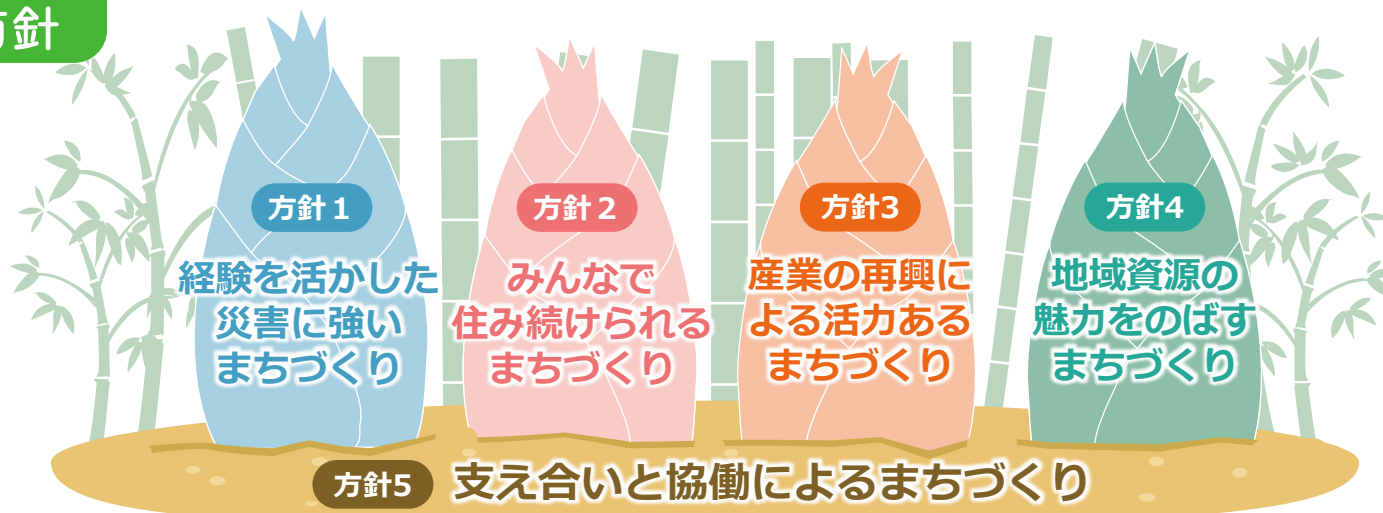
豊かな自然と歴史・文化を未来へつなぐ真備
～安心・きずな・育みのまち～

今回の平成30年7月豪雨災害を経験した真備だからこそ、住民一人ひとりの防災意識が高く、みんなで安心して暮らせる災害に強いまちをつくる。

人々の支え合いと協働により、これまでのきずなをより深め、また新たな交流を育むことで、笑顔あふれる元気なまちをつくる。

これらに加えて、真備の地域資源・産業を育み活かすことで、真備の魅力をさらに伸ばし、未来へつながる活力あるまちをつくる。

基本方針



方針1 経験を活かした災害に強いまちづくり

主要な施策

① まちを守る治水対策

- ・国・市が連携した、小田川合流点付替え事業の早期完成
- ・国・県・市が連携した、小田川及び末政川・高馬川・真谷川・大武谷川の堤防復旧・強化
- ・河川改修事業の進捗状況の見える化など、わかりやすい情報提供

② 身近な緊急避難場所の確保

- ・各学区に緊急避難場所を確保する

③ 災害に強い都市基盤づくり

- ・災害時の緊急輸送を円滑に実施する幹線道路、避難路の確保
- ・安全な住宅の再建促進

④ 地区ごとの防災体制づくり

- ・住民による地区防災計画の作成と、教訓を活かした防災教育等を通じた防災意識の向上
- ・高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが安全な場所に避難できるように、支え合いと協働により避難体制を強化
- ・今回の災害を後世に伝え、将来に備える

方針2 みんなで住み続けられるまちづくり

主要な施策

① 被災者の生活支援

- ・生活再建に向けた各種支援の継続と、支援制度の情報提供
- ・健康状態の確認や孤立防止などのための見守り支援

② 安定した住まいの確保

- ・生活の基盤となる住まいの自力再建の支援
- ・被災家屋の解体撤去支援
- ・民間の地域優良賃貸住宅などの整備促進
- ・被災した市営住宅の再建
- ・自力再建が困難な方のための災害公営住宅の整備

③ 暮らしを支える公共施設等の復旧

- ・支所・消防分署・学校・幼稚園・保育園・文化施設などの公共施設、医療・福祉施設などの暮らしを支える各種施設の早期復旧
- ・復興の段階に応じた公共交通など移動手段の確保
- ・地域コミュニティの再生に向けた、住民活動の拠点となる施設の早期復旧

方針3 産業の再興による活力あるまちづくり

主要な施策

① 農業の再興

- ・被災農業者の早期営農再開に向けた支援
- ・農業者にとって魅力とやりがいのある農業構造への転換

② 地域企業の再興

- ・被災中小企業の早期事業再開に向けた支援
- ・地域資源を活かした販路開拓支援

③ 賑わいと交流の創出

- ・復興商店街や復興イベントなどへの支援
- ・吉備真備公・日本遺産の箭田大塚古墳・金田一耕助など、全国レベルの観光資源を活かした取り組み



方針4 地域資源の魅力をおぼすまちづくり

主要な施策

① 豊かな自然と歴史・文化の魅力を発信

- ・真備の自然と歴史・文化など地域資源を活用し、真備の魅力を全国・世界に発信することで、交流人口を拡大

② 未来につながるまちづくり

- ・賑わいや交流の促進に向けた拠点づくりや、身近な生活を支える機能の向上などによる持続可能なまちづくり



方針5 支え合いと協働によるまちづくり

主要な施策

① 住民主体のまちづくり

- ・住民、事業者、NPO、各種団体、行政などが相互に連携し、復興に係わる全ての人々が主体的にまちづくりに参画

② 国・県・市の連携による情報提供

- ・国・県・市が連携して推進する、復興計画に掲げる復旧・復興の取り組みや進捗状況などのわかりやすい情報提供



真備地区被災状況

浸水エリア

- ☒ 決壊2か所(国) ☒ 決壊6か所(県)
- ✕ 一部損壊等6か所(国) ✕ 一部損壊等1か所(県)

◆真備町 4,400haのうち
1,200haが浸水

全壊 4,645棟
大規模半壊・半壊 847棟

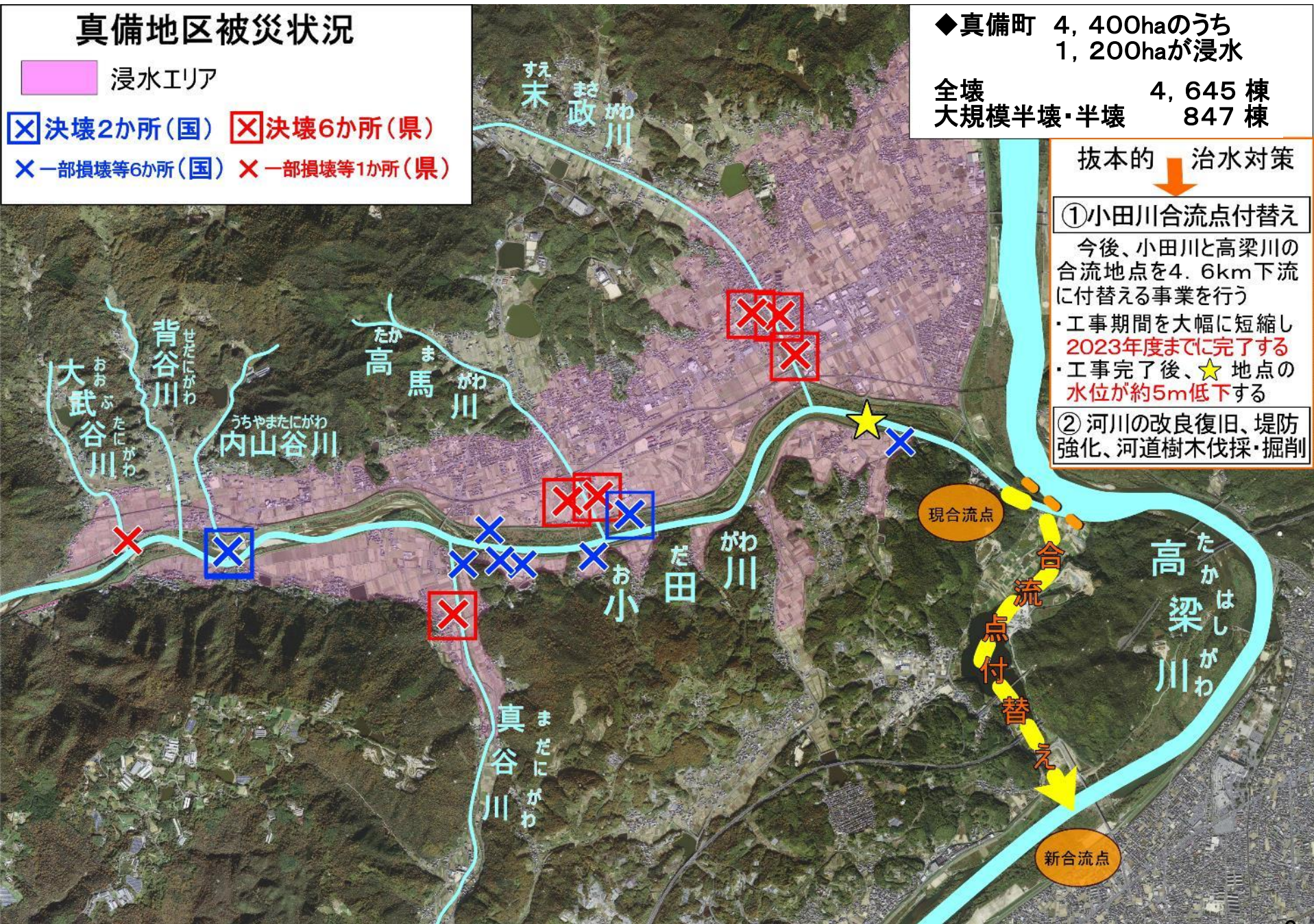
抜本的 治水対策
↓

①小田川合流点付替え

今後、小田川と高梁川の合流地点を4.6km下流に付替える事業を行う

- ・工事期間を大幅に短縮し **2023年度までに完了する**
- ・工事完了後、★地点の水位が約5m低下する

②河川の改良復旧、堤防強化、河道樹木伐採・掘削



学校名	緊急避難場所	避難可能人数
川辺小学校	2階・3階の教室 (512㎡) 2階・3階の廊下 (322㎡)	約830人
呉妹小学校	1階・2階の教室 (398㎡) 1階・2階の廊下 (312㎡) 体育館 (505㎡)	約1,200人
真備東中学校	2階・3階・4階の教室 (810㎡) 2階・3階・4階の廊下 (532㎡)	約1,340人
真備中学校	3階の教室 (195㎡) 3階の廊下 (161㎡)	約350人
真備陵南高校	2階・3階の教室 (665㎡) 2階・3階の廊下 (325㎡)	約980人
全体の合計避難可能人数		約4,700人

※この緊急避難場所は、指定された避難所に避難することが困難な場合に、緊急的に身の安全を確保するために一時避難する施設または場所

※平成31年度に指定

○ 復興ビジョン公表後、第2回真備地区復興懇談会及び復興ビジョン説明会を開催し、約410名が出席



第2回復興懇談会に参加できなかった方などへ市担当者からご説明

復興ビジョン説明会

1月18日(土) 13:30~15:30 (受付13:00~)

13:30~15:30 (受付13:00~)

館 大集會室 (真備町前田1685)

※会場の駐車場もご利用いただけますが、駐車台数が限られていますので、車でお越しの方は、真備支所の駐車場もご利用いただけます。ご協力をお願いします。

この日も早く安心して暮らしていく生活を営むことを目指し、倉敷市では、12月15日(土)「復興ビジョン」の公表後、真備地区の復興計画、策定に向けた市民の声を聴くことにより、策定を進めてきたことと、懇談会の内容を市担当者でご説明いたします。

町在住、通勤、通学の方など、

先着順

☎先: 倉敷市災害復興推進室 TEL: 086-420-3460

真備町の復興に向けて倉敷市が皆様のご意見を伺います

第2回 復興懇談会

1月14日(月) ①10:00~12:00 (受付9:30~)

②14:00~16:00 (受付13:30~)

伊原市長が出席します

会場: 菌小学校 体育館 (真備町市場4338)

真備支所から無料シャトルバスを運行します。(19:00~9:30 2:13:00~13:30)

※なお、会場の駐車場のご利用は限られています。駐車台数が限られていますので、車でお越しの方は、真備支所の駐車場もご利用いただけます。ご協力をお願いします。

真備地区の復興計画、策定の復興計画に向けて早くも安心して暮らしていく生活を営むことを目指し、真備地区の復興計画、策定に向けた市民の声を聴くことにより、策定を進めてきたことと、懇談会の内容を市担当者でご説明いたします。

☎先: 倉敷市災害復興推進室 TEL: 086-420-3460

第2回復興懇談会		復興ビジョン説明会	
1/14 (AM)	1/14 (PM)	1/18	1/20
約150人	約90人	約80人	約90人

【方針1】 経験を活かした災害に強いまちづくり

- 真備緊急治水対策が完了するまでの5年間の河川の安全性
- 小田川・高梁川の河道掘削・樹木伐開
- 河川工事のわかりやすい事業内容・事業効果の説明
- H30年7月豪雨におけるダム放流などの検証及び適切な管理・運用と下流への情報共有
- 国や県の治水事業の工程や河川維持管理の明示
- 陸閘の見直し・改善
- 県は河川工事に伴う周辺道路拡幅の有無を早急に公表すべき
- 堤防の工事における砂埃対策
- 排水ポンプの適切な管理
- 避難場所への安全な経路の確保(拡幅等)
- 災害の伝承, この水害の経験を未来に活かしていく必要がある
- 市だけでなく, 復興懇談会への国・県の同席

【方針2】 みんなで住み続けられるまちづくり

- 公費解体における解体予定時期など状況の開示
- 仮設住宅の期間延長の検討をしてほしい
- みなし仮設からみなし仮設への転居検討をしてほしい
- 災害公営住宅の整備における規模や場所の早期提示
- 二重ローンの救済措置
- 地区集会所の修繕補助の拡大

【方針3】 産業の再興による活力あるまちづくり

- 復興に向けて賑わい創出を是非やってほしい

【方針4】 地域資源の魅力を伸ばすまちづくり

- 復興のシンボル、ランドマークをつくってほしい
- 災害時に防災拠点としても使用できる公園の整備
- 河川敷に、グランドゴルフやマレットゴルフなどができる場所を要望

【方針5】 支え合いと協働によるまちづくり

- 河川の管理について、住民と行政が一緒にできないか

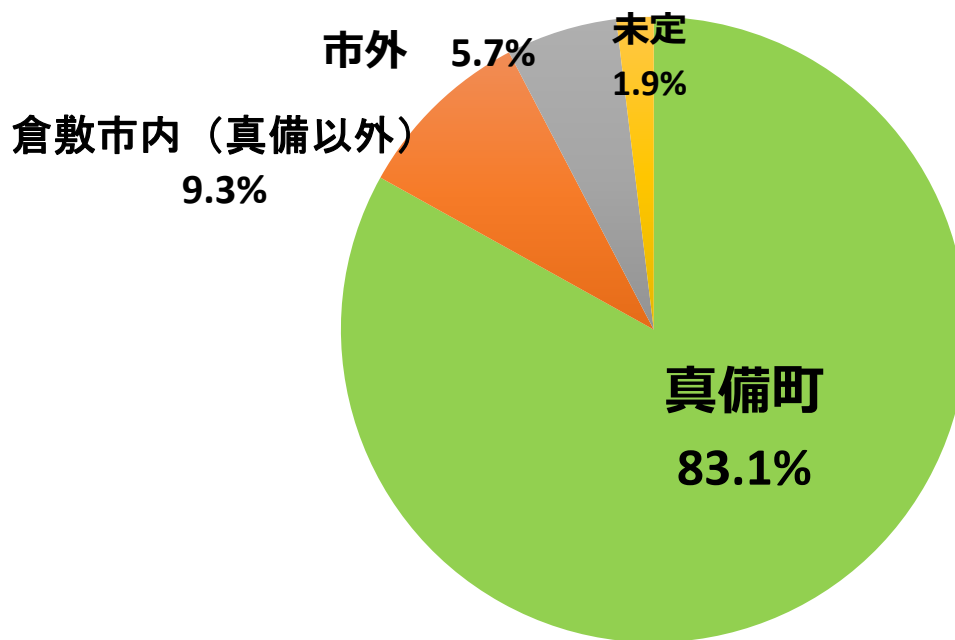
その他

- 昨今の気象状況の中で絶対に切れない堤防はないことを前提に、対応策を考えるべき
- 若い人達も戻ってくるような対策を

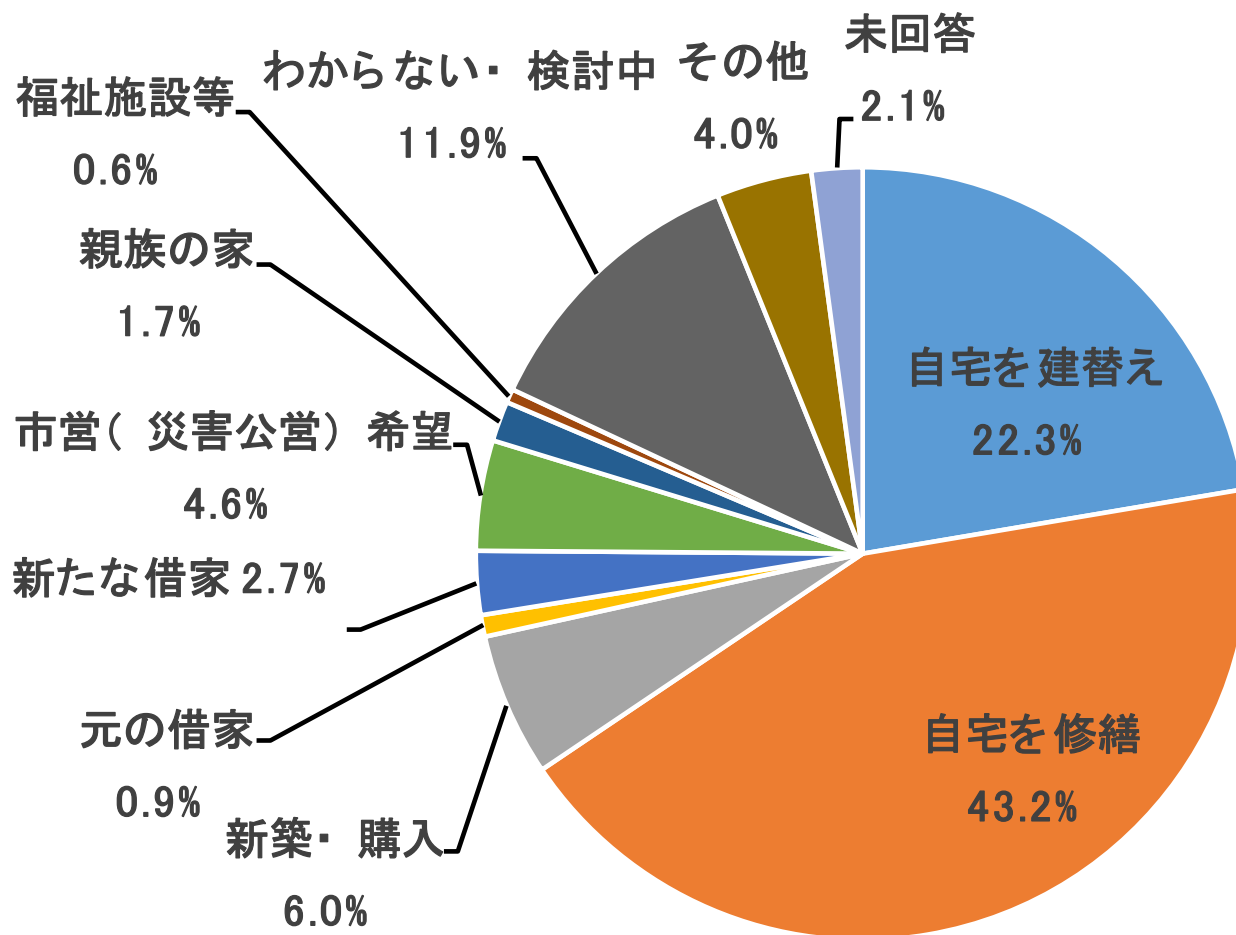
住まいの再建に関するアンケート調査（速報）

内 容	住まいの再建意向 (住まいの再建見通し・希望する居住先・住宅再建に向けた課題等)
期 間	平成30年12月18日～平成31年1月10日
送付数	約5,700世帯 ※り災全世帯
回収数（回収率）	約3,300票（約58%）

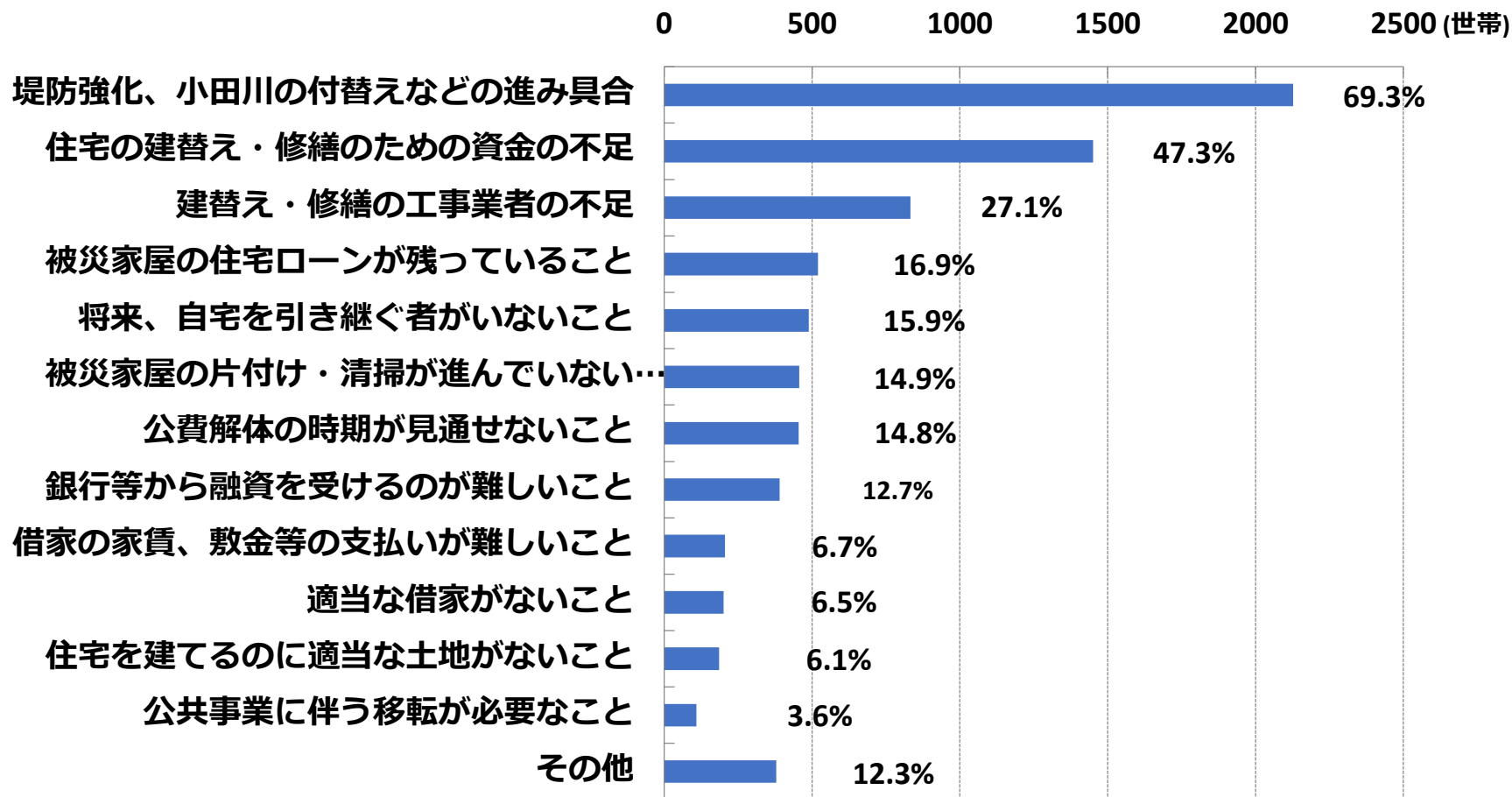
○ 今後居住する予定・もしくは居住を希望する地域・地区



○ 今後の再建見通し



○ 住まいの再建に向けた課題



真備地区の復興に向けた住民意向調査（速報）

内 容	復興ビジョンと復興に向けた施策に関するご意見	
期 間	平成31年1月10日～平成31年1月25日	
送付数	約9,400世帯	※発災時に真備在住の全世界帯
回収数（回収率）	2,142票（約23%）	

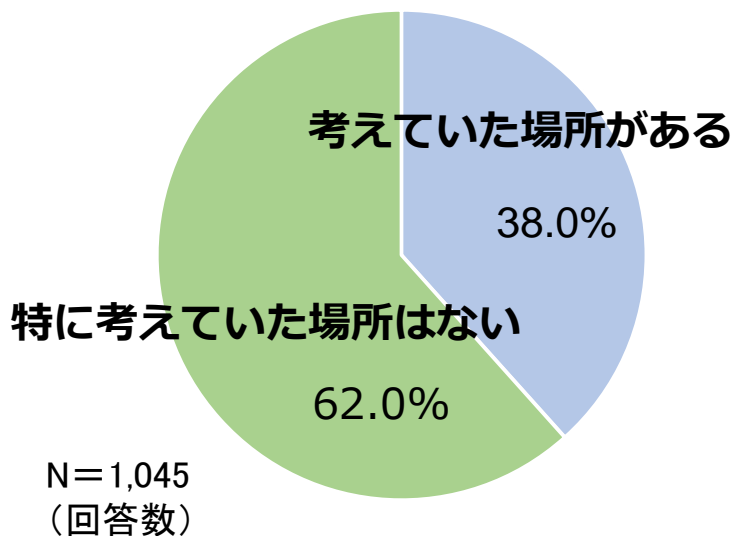
○ 復興ビジョンで重視する主要な施策の上位7項目 ※1人3項目選択

主要な施策	割合	件数
(方針1) まちを守る治水対策	74%	1,588
(方針2) 被災者の生活支援	45%	960
(方針1) 身近な緊急避難場所の確保	37%	796
(方針1) 災害に強い都市基盤づくり	34%	738
(方針2) 安定した住まいの確保	27%	573
(方針2) 暮らしを支える公共施設等の復旧	21%	444
(方針1) 地区ごとの防災体制づくり	16%	339

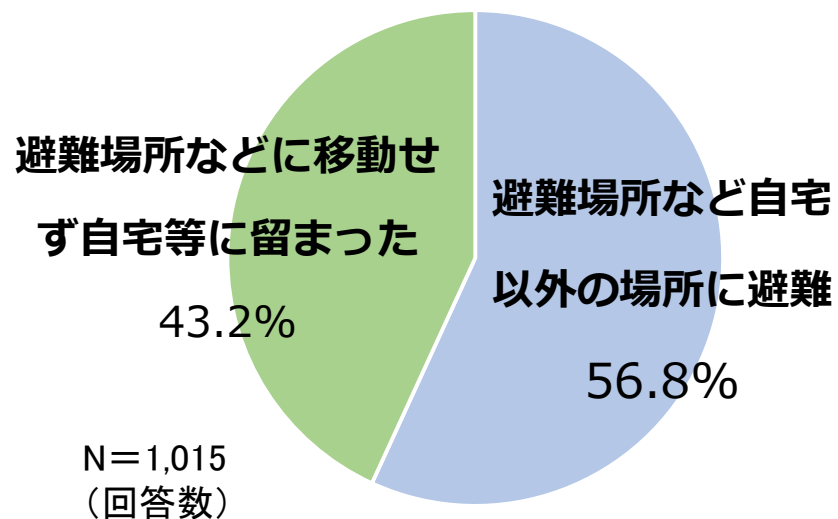
防災まちづくりに向けた避難行動等に関する調査（速報）

内 容	発災時の避難行動 (避難開始時間、避難先、移動手段、連絡相手、避難候補地等)
期 間	平成30年12月3日～平成30年12月22日
送付数	約2,900世帯 ※発災時に真備町在住の世帯（サンプル抽出）
回収数（回収率）	1,495票（約52%）

災害以前からどこに 避難するか考えていたか

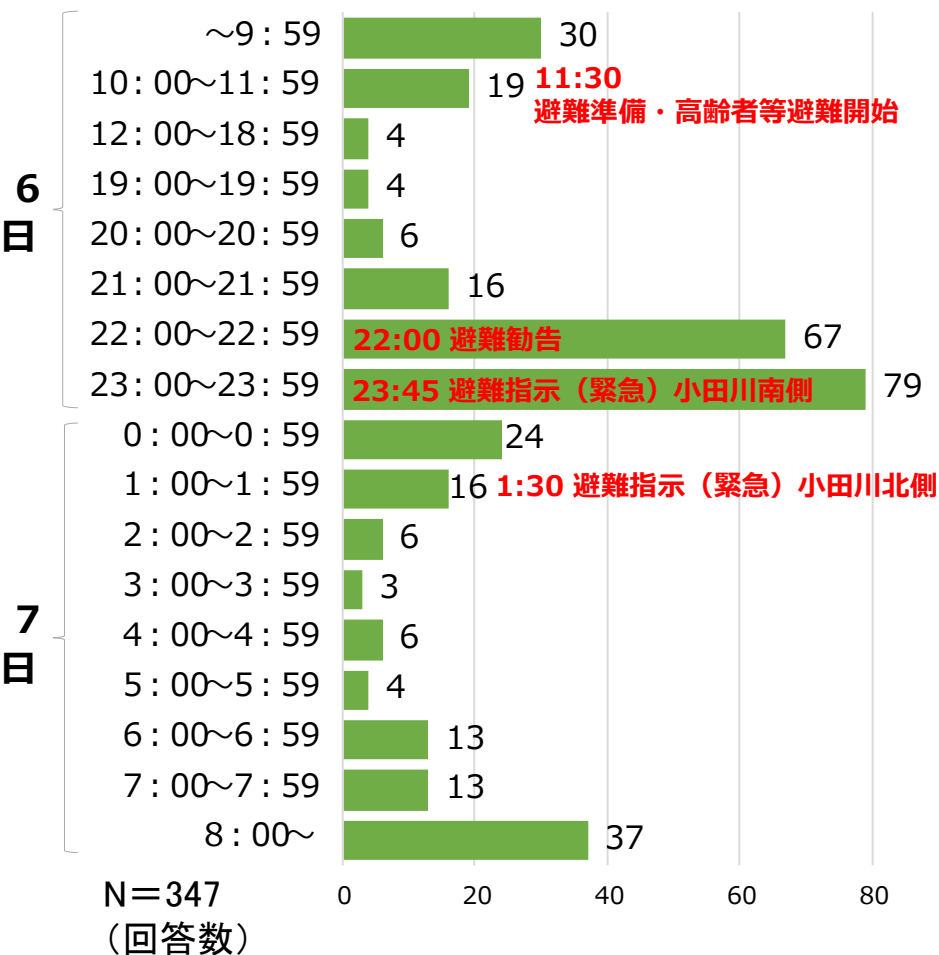


避難行動の割合

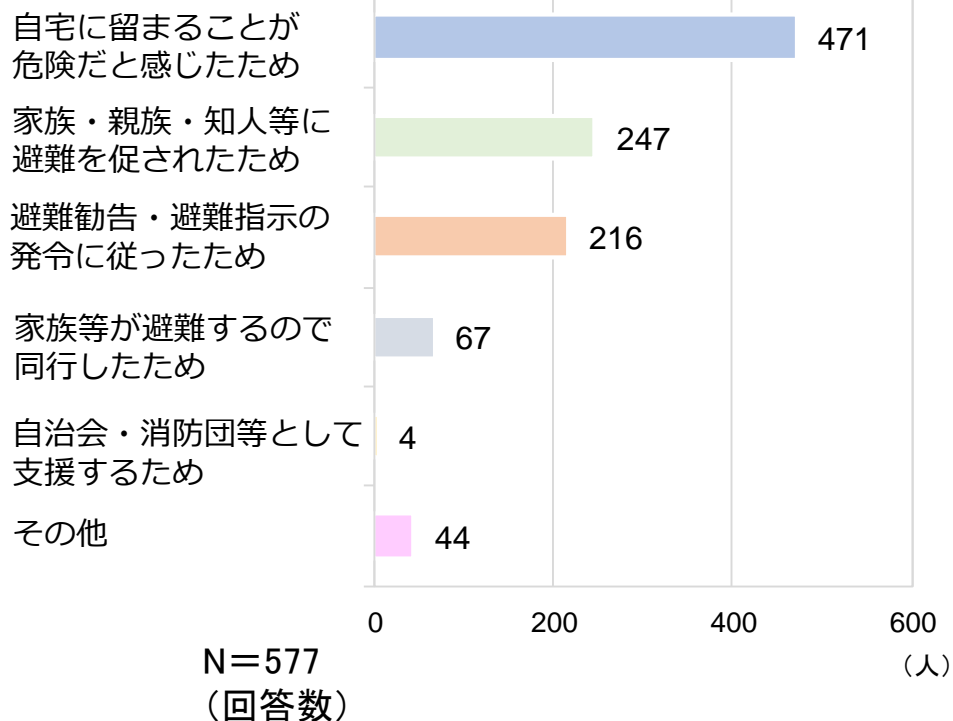


避難場所※に避難を開始した時刻

※学校等の公共施設（指定避難場所以外を含む）
ただし、親戚・知人宅や職場、神社・集会所・商業施設等に避難した世帯は除く。



避難した理由（複数回答）



「真備地区復興計画」策定に向けたスケジュール

- ・ 2月8日より復興計画（素案）に関するパブリックコメントを実施予定
- ・ 委員会でのご意見や住民提案、住民意向調査の結果を反映した「真備地区復興計画（案）」を次回策定委員会で提示。

